

## 【 講演講師プロフィール 】



### 佐藤 優 (さとう まさる)

元外交官、作家。東京都生まれ。

ノンキャリアの専門職員として外務省に入省。

ロシア情報収集・分析のエキスパートとして活躍し、

「戦後最強の外交官」「外務省のラスプーチン」などの異名をとった。

同志社大学神学部卒業、同大学院神学研究科修士課程修了。神学修士。

2002年5月、背任容疑で逮捕。同年7月、偽計業務妨害容疑で再逮捕。

無罪を主張するが1審で有罪判決、2審で控訴棄却、2009年6月30日

上告棄却。懲役刑（執行猶予4年）が確定したため同日付で外務省職員

を失職する。2013年6月30日執行猶予期間を満了し、刑の言い渡しが

効力を失った。

1審判決後、事件の内幕や背景などをつづった著書『国家の罨』を出版する

（第5回新潮ドキュメント賞受賞）

第38回大宅壮一ノンフィクション賞

第59回毎日出版文化賞特別賞を受賞

# 戦後70年から未来を創る・・・

講師 佐藤優氏 (元外務省主任分析官)

## 【集団的自衛権について】

ご紹介いただきました佐藤優です。齋藤先生から80分という時間をいただきましたが、30分はみなさんとの議論を行い双方向性を持たせて進めていきたいと思えます。

戦後70年僕も新聞にいろいろ書きましたが、新聞に現れていることだけ議論してもおもしろくないんです。齋藤勁先生は民主党なので、ちょっと申し訳ないんですけど国会審議で民主党は安保法制反対しているでしょ。集団的自衛権もとりあえず反対だけれどなんか気合いが入ってないと思いませんか。実は民主党の三分の二ぐらいの人って集団的自衛権に賛成しているんじゃない？ちょうど辺野古のV字滑走路を決めたのが菅政権、その時に「けしからん」と自民党が辺野古移設に反対していたじゃないですか。どうもそういうような政治ゲームの中だけでやっているようなものは国民の心に響かない。それだから、今なぜ民主党の主張が通らないんだと言われたら「話者の誠実性」に疑いがもたれているから。学生諸君、「話者の誠実性」というのは、ユルゲン・ハーバーマスのコミュニケーション的行為の理論の中のひとつのカギになる話だから。「こいつ言っていることウソっぽいな」と思ったら誰も信じてくれない。その点、齋藤勁さんという人は首尾一貫してブレない。社会党の時代も民主

党の時代もそう。野党の時代も与党の時代もそう。齋藤さんの言うことは本当に信用できる。だから僕はここに来るんです。私は元々は基督教の神学部出身だからね。今日神奈川大学の学生さん達が来ているでしょ。私ははじめて明かすけれど実は神奈川大学も受けている。神奈川大学の給費生試験を受けている。もし、同志社大学の神学科が拾ってくれなければ、行きたいなあと思う大学のオプションの中に神奈川大学があった。それで今日若い学生さん達が来ているのでわかりやすく話します。それで、もしトンチンカンだぞと思うことがあったら手を挙げて。難しいと学生諸君が感じるならば、もう少し噛み砕いて話すから遠慮しないで。「神は細部に宿り給う」と神学では言うのだけれど、悪魔も細部に宿る。この安倍政権の悪事を見抜くためには細部を見ないとダメ。例えばホルムズ海峡に掃海艇を出すことが出来るかどうか。この話、偉く安倍さん力こぶが入っているよね。ところが連立与党の公明党の山口那津男(なつお)さんは、現実的にはありませんと言っている。なんで二つの与党の党首は真逆のことを言っているのか。この細部を見てみると今の安倍政権の特徴がわかる。『掃海艇、前に日本が送っているじゃない。えらい感謝されたでしょ』とこういう意見をいわゆる保守派の人達は言う。ぜんぜん事態を勉強していない。あれはサダム・フセインとの戦争の後で、戦闘行為が終わった後にホルムズ海峡に行って掃海艇が機雷を除去した。国際法的には戦闘行為が終わっているから、これはゴミ掃除なんです。ですから有事法制とも何の関係もない。ゴミを掃除に行きますかという観点での国際協力。いま話しているのはぜんぜん違う。ホルムズ海峡の国際航路帯というのはどこを通過しているのか。みんな真ん中を通過していると思うんだよね。ここのところでマスコミも誤魔化している。真ん中は通っていないでアラビア半島の方を通過している。ぱっと見るとホルムズ海峡のとこ

ろはアラブ首長国連邦があるなどわかる。いま、i-padとか持っている人は、あの付近の地図を出してみても、へさきのところだけ色が変わっているでしょ。へさきのところだけオマーンの飛び地です。オマーンの首都はマスカット、アラビ・アンナイトに出てくる船乗りシンドバットの国です。かつてはマダガスカルからインド洋まで支配する巨大帝国でした。それだから今でもあちこちの重要なポイントに飛び地をもっている。しかも1970年代の初めまでは鎖国、江戸時代の日本がオランダに対して窓を開いていたと同じように、鎖国時代のオマーンはイギリスに対して窓を開いていた。だからイギリスとの関係はとても良好。このオマーンの領海を国際航路帯は通っている。それから国際法という法律がある。これは文章になっているものもあればないものもある。国際法では、ある国の中に機雷を敷設することは、ただちに宣戦布告になります。これ、国会でまじめに審議していないでしょ。ホルムズ海峡に掃海艇を送るという事は、どの国が機雷を仕掛けるのですか。イスラーム国は海軍持っていないので物理的に機雷を仕掛けることは出来ませんよ。どうも自民党の国会議員や民主党の勇ましい人の意見を聞いていると、イランが仕掛けると思っているんだな。今の状況ではアメリカはイランと仲良くしようとしているから考えられない話。でも仮にイランが機雷を仕掛けたとすれば、オマーン・イラン戦争になるわけ。ところがイランとオマーンの関係を見た場合に、イラン・イラク戦争の時にオマーンだけはイラク側に加わらないで中立なんです。オマーンは伝統的にイランとの関係をすごく重視しているの。だから、イランがオマーンの領海に機雷を敷設するというのは、日本の海上自衛隊とフィリピン海軍が戦闘に入るのと同じぐらいの確率だという事。それだからこの機雷敷設の問題は国際的なニュースにぜんぜんならない。例えばどこかの国で、「日本フィリピン決戦来

る」という論文書いているとしたら、イカれているとしか思われないでしょ。もっと考えてみて、外務省のホームページ見たら、日本に今、在イラン人は4,600人ぐらいいる。登録していない人を入れれば1万人を超えると思う。イランはシーア派のイスラーム原理主義国家、仮に日本がイランに宣戦布告するという事になったら日本国内にいるイラン人のなかで、「これは横須賀の基地にしても攪乱しないといけない」と「横田もやっつけなくてはいけない」と考える人が一人も出てこないと思う方がおめでたいよね。日本国内でのテロになりますよ。それから外務省のホームページ見るだけでも、600人以上の日本人が今イランの領域にいる。この人達は全員出国が禁止されて抑留されます。掃海艇を出すというのはそういう事態なのです。日本がオマーン側に加わってイランに宣戦を布告するという事なんです。こんな怖い議論を今国会でやっているわけ。でも現実性がないから誰も相手にしてくれない。公明党の山口さんは国際法の理屈はわかるから、「ああ、そんなのあり得ない」と一蹴している。しかし安倍さんはすごく固執している。集団的自衛権をめぐる去年の閣議決定、民主党のみなさんはまた違った見解だと思うけれども、僕はあの閣議決定は良くできていると思う。どうしてかという、あの閣議決定は国際法と国内法の使い分けをしているだけなの。例えば安倍さんの言っているような、アメリカの軍艦に日本人の親子が乗っていると、そういう状況だったら、日本人が乗っているんだから個別的自衛権で充分対処できます。あるいは、戦争が始まる事前の事態になったら警察権で対応できます。ただね、イラクへの自衛隊の派遣、インド洋での石油の供給、こういうのを全部個別的自衛権で説明していた。これ国際法的に見ればどう見ても集団的自衛権なんです。中学校・高校でやる集合の図で、重複集合についてのベン図を思い出してください。個別的自衛権と集団的自衛権

が重なる重複集合の部分がある。この重複集合の部分、国内法的に見ればこれは個別的自衛権、だから今まで集団的自衛権は行使できないと言っていたの。それを国際法的に見れば集団的自衛権とも言えるねと、去年の閣議決定はそれだけの話。ところが今年の安保法制化の議論は、僕は途中まで読んでいて、ばかばかしくなってもう追いかけるのを止めた。それぐらい変な話です。まずこれとぜんぜん違うところでニューヨークに行った外務官僚と防衛官僚がガイドライン改定をした。(2015年4月27日)それで、日米が共同して活動する場所というのを、今まで決まっていたアジア太平洋地域を「アジア太平洋地域及びその他の地域」にした。という事はどういう事だろう、地球全部という事ですよ。アフリカ・ヨーロッパ・中南米・中東でもどこでも行くという事ですよ。こんなレトリックで国民をだますことが出来ると思っているから、外務官僚っていうのは本当に人を軽く見ている。だいたい安全保障条約はその前文、第4条・第6条、i-padとか持っている人は開けてみよう。「日本国及び極東に対する脅威」というふうに極東に対する地域的な縛りがかかっている。これを地理的な概念ではないと言い誤魔化しながら、アジア太平洋地域に拡大してきたの。これが1997年のこと。それを今度は地球全体に拡大しているわけ。たとえば今まで神奈川県に適用されるものが神奈川県および神奈川県以外の都道府県と言っておいて日本全国ではないと主張しているようなものなので、まったくナンセンスなんだ。外務省の先輩でいま首相官邸に出入りしている人に聞いてみた、いったいどうなっているんですかと。私にはまったく理解できない、こんな法案を作ろうとしている連中のアタマの中がぶっ壊れているのではないかと私は言った。すると、先輩は「佐藤さん、ホテルニューオータニ方式だな」と言う。東京のホテルニューオータニ、入り口は本館で2階がロビー、さらにタワー館の6階に

つながっている。『2階とか6階とか言う議論は意味がない。入り口は安保で出口は集団的自衛権だ』と。『これが切れ目のないという事だ』と。これは要するに日米同盟という事で無条約状態におくという事で、何でもありっていう事。でも、何でもありは政治判断でなんでも止めることが出来る。一言で言えば「おいらの思うとおりにさせていただきます」というこれだけの話なんです。こんないい加減な話でいざ有事になったときに動くはずがない。だからフォローするだけ無駄だと思っている。だけど大変ですね、9月の終わりまで会期延長になるので外務省のみなさんは、半分はよろこんで半分は悲しんでいる。悲しんでいる人達は外務本省の人達、毎日国会待機の当番があるから。よろこんでいるのは在外公館（大使館、総領事館など）の人達、国会議員が来ないでアテンドしないで済むから。こういう変な安保法制なんだよね。これをきちんとひっくり返すために最終的に重要なのは国民の声になってくる。今の国会の中では押し切られるでしょう。ただ、これは去年の内閣の閣議決定とも反する。あるいは自公合意、本当に自民党は自公合意を守れると思っているのか、国連憲章に違反しない、国際法に従わない形での戦闘行為には参加しないという約束をしているけれども、東西冷戦終結後、国連決議に従ってアメリカが出た事っていつがあるかな。最近のアメリカはハッキリ言っている「自らの核心的利益に関することは一方的行為を取る」と。国際法も国連憲章も無視するという事です。その時に日本に助けてくれという事でしょう。自民党・公明党との「北側3原則」を認めるならば、一切協力できないことになる。しかし、たぶんそういうことにはならないと思う。となると、公明党との合意も最初から守るつもりのない合意をしているという事になる。あるいは北側さんの言っていることが難しすぎてよく理解できないのかもしれない。今日(6/22)の参考人審議でも、元の法制局長官が来

て言っている話、たぶん今の内閣の連中には難しすぎて理解できない。でもいいんだと、気合いで行くんだと、これが今の政権の特徴だからね。

### 【国際情勢の大きな動きを見る】

じゃあ、この変な政権の変なことは脇に置いておいて、今国際情勢がどうなっているかと、大きな動きを見なければいけない。その時ポイントになるのは中東なんです。日本の新聞、レベルは高いんだよ、ただし日本独特のニュースの拾い方があるの。それから日本独特の味付けがあるの。だから例えば東京で受けてるインターナショナル・ニューヨークタイムズと比べて何の記事が一番少ないかというと、中東記事なの。しかも、中東記事の味付けが基本的には、親パレスチナ、親アラブ、親イランになっているわけ。中東において圧倒的な影響力を持っているところのイスラエルのとらえ方というのが、日本の新聞を見ているとほとんどわからない。だから、イスラエルとアメリカの関係が今ものすごく緊張しているのに、その根っこにある国際情勢をどう見るのかという事がわからない。簡単にまとめて話すと、2015年の今年になって国際秩序がものすごく変化している。今年の1月の7日から9日にこの変化がはじまった。フランスに於ける連続テロ事件。あれはムハンマドの風刺画が原因ではないんです。1月の8日にイギリスのMI5(保安部)のアンドリオ・パーカーという長官、これはイギリスの秘密警察だから滅多に表に出てこない。この長官が珍しく記者会見を開いてその内容がロイター通信で報道された。「昨日パリで起きたことは近日中にイギリスで起きてもおかしくない、象徴的な施設が狙われている。シリアのアルカイダ系の組織がやっている。西側全体が標的にされている

ぞ」という話をしている。これはすごく短いロイター通信の報道なんだけれども、世界のインテリジェンス関係者や軍事情報関係者あるいは私のように外交情勢を見ている専門家達へのメッセージ。「見誤るなよ、言論の自由、表現の自由の問題じゃないぞ」と。これはね、世界イスラーム革命がスタートした、そのようにイギリスは認識しているという事なんです。アラーの神様は一つ。それに対応してこの世の中には、シャリーアというイスラーム国単一の法によるカリフ帝国が出来ないといけない。こういう考え方をテロや暴力も含めて実現する、これが本格的に始まったという事です。実はこれによく似た考え方があった。国際共産主義。今日の会場に来られた方の中でたぶん日本共産党関係者はいらっしやらないと思うが、いたらごめんなさいね。日本共産党は国際共産党の日本支部として出来た。それだから、世界を国家とか無くして単一の原理で統治していこうと考えていたわけです。人類ではそういう運動が入れ替わり立ち替わり数百年に一回ブームになることがある。たとえば16世紀にフランシスコ・ザビエルが日本に来たでしょ。あれは世界をカトリックで一体化してしまえという、トリエント公会議以降のカトリック教会の攻勢によってなされたものだよね。だから江戸幕府は賢明だったよね。カトリックの危険性があるから鎖国をした。この世界を一つにされて植民地にされちゃうという危険性があるから、そういうことをしないプロテスタントのオランダとだけ外交をやって、外国の文物はオランダ経由でとればよいと、当時の先進国でみんなが憧れていたポルトガルとの関係は切ってしまうという判断をした。これ、グローバリゼーション、単一の価値の中で世界を支配していこうという事に対する日本の抵抗なんです。日本の共産党が結局敗れてしまったのも、このグローバルな秩序の中に世界を一つにしていこうという流れに日本はついて行けなかったということだと。ち

なみに、最近の民主党は旧社会党の系統をひいているという事をみんな恥ずかしがるというか、社会党じゃないんだという事ばかり強調するんで、私はなんでそんな異常なことをするか理解できないんだけど、日本社会党の伝統ってすごいたくさん良いものがあるんですよ。例えば社会党左派の人達に強い影響を与えていた「労農派マルクス主義」という考え方、共産党とは一線を画す、マルクスの考え方の格差を是正する労働者の力というものにより世界を変えていくんだという力を活かしていこうというもの。だからその辺を伝えたいと思って、今石井一さんのいとこがやっている明石書店から社会主義協会の共同代表で、前の社青同の中央本部委員長だった山崎耕一郎さんと長い会談本を出して、来月ぐらいに出ると思うけれども是非学生のみなさんに読んで欲しいのだけれど、それは日本の社会党と社会党がもっていたマルクス主義の歴史について書いた本です。話を戻しますね、世界をたったひとつの秩序で支配してやれという、このイスラーム原理主義の運動っていうのは、何段階かに分かれて行われるの。最近で一番大きかったのは、2001年9月11日のアメリカに於ける同時多発テロ。あれはウサマビン・ラディンという指導者が指導したわけだけれど、指導者が命令して誰かが自爆テロを敢行するという実行犯がいるという事は、実行犯からたどっていくとトップまで全部判るわけ。アメリカはカウボーイの国だからね、やられたら利息も付けてやり返すってところがあるから、野を超え山越え声草の根かき分け最初の半年ぐらいで、この9.11同時多発テロに関与した人間全部殺してしまったんだよ。最後に生き残ったのがウサマビン・ラディンだけ。これは10年かけて追い詰めて殺した。ちなみにこの過程で思わぬ兵器を発見した。これがUAV、無人飛行機いわゆるドローンってやつなの。中国が今航空母艦造っているよね、これ、造らせておいた方が良い。どうしてかというとな

駄になるから。なぜか？ 中国の航空母艦はソ連型、それでウクライナから購入した。ホントはだまし取ってきたの。ウクライナに造りかけの航空母艦があったのだけれどウクライナお金がないから港で放っておいたら4度ほど傾いた。このままだったらニコエフスクの港に沈んでしまい大変だという事で、これをスクラップにするっていう、スクラップ買いませんかという事で募集をかけた、そしたらマカオのカジノ会社が洋上カジノにするっていう買いに来た。良い値段だったので売った。そしたら黒海からボスポラス、ダーラレス海峡を抜けて、ずうーっとインド洋を抜けてマカオの沖まで来た。そしたらマカオに泊まらないで大連の軍港に入っちゃった。大連の軍港に入った直後にカジノ会社は解散しちゃった。それで船はまた航空母艦に造り直している。だまし取ってきたんだね。ところで航空母艦って3隻ないと運用できない。壊れやすいので1隻はいつもドックに入って修理している。実戦で1隻だけ出ていって敵にやられて故障したら、飛行機が全部着けない。予備でもう一隻が必要。だから常に3隻要るわけ。それが出来るようになるまでに、だいたい10年から15年かかる。それから、横須賀なんかに来る航空母艦って先っちょが平らだけど、中国の航空母艦はスキージャンプ台みたいに上向いているよね。あれはどうしているかというアメリカとイギリスの航空母艦はカタパルト技術が発達しているから平たいところで打ち出せ、簡単に空にあがれるけれどソ連型のやつだとね匠の技が要るわけ。そうでないと上がれない。あれを訓練している間にたくさん飛行機が落ちるし、たくさん人が死ぬんです。無事着艦できるようにするために5年ぐらいかかるとおもう。そうすると短く考えて15年、長ければ20年実際に中国が航空母艦を運用できるまでにかかるわけです。その時には無人飛行機が発達しているから航空母艦は中国以外の国ではもっていないよね。だってタダの標的にな

るから。だからそういう無駄なことに中国が金を使っているというのは大いに結構なことではないか。これの先輩は日本。吉村昭さんの「戦艦武蔵」という本を読んでみてください。7割が戦艦武蔵を造る話だけど戦艦武蔵用の予算で無いんだね。大和用も。秘密にしなければならないので、架空の巡洋艦や駆逐艦を造ることにしてその予算を合わせて造った。それから椰子みたいな棕櫚(しゅろ)、あの木の繊維が高騰する。どうしてかというと軍が密かに買い集めるの、三菱造船所の長崎工場のそばは高台で、グラバー邸があるでしょ。だからムシロで隠さなければならなかった。ワラで造るとすぐに腐るし。耐水性があり風に対して丈夫で長持ちで棕櫚しかないということで海軍が秘密裏に棕櫚を買い付けたので高騰しちゃったんだよね。その話から始まって、今の特定秘密保護法に似たような当時の軍機保護法。これがどんなに怖かったかという事もこの本を読むとよくわかる。工業学校を卒業した若い学生が、こんなところの雑用は嫌だ、設計図の一部が無くなれば逃げられると考え、自分がミスして無くしたと言うと、特高警察や憲兵が来て技師達を捕まえて顔が曲がるほどの拷問を加えた。だから特定秘密保護法の怖さなどはこの作品を読むとよくわかる。後は、7割が造るときの話で2割が沈むときの話。1割だけが活躍しているときの話で、活躍は実際ほとんどしていないの。最近海底で武蔵が見つかった、あれ見てプラモデルマニアの間で今、結構話題になっているんだね。レイテ沖海戦の武蔵最後のプラモデルを売り出した。どうもあの海底の画像と違う、あのプラモデルはインチキだったんじゃないかと、こういう話になっている。半藤一利さんと先日話していたら、最期レイテ沖海戦に行く前に対空砲火の能力を強化しないといけないという事で、高射機関砲を増やしたんだって。ところが武蔵は主砲がでかいでしょ、あれがドカンと撃つとそこら辺にいる人間は爆風で海に飛ばされちゃ

う。その爆風が機関銃座にいる人にあたると内蔵が飛び出しちゃう。それだから防風用の鉄の分厚いガードを造らなければならないんだけど、大和は間に合ったけれども武蔵は間に合わなかったんだって。そこで、出ていったときに主砲を撃つ前に、ブザーを鳴らして放送して主砲を撃つからみんな中に待避せよと、そういうことになっていたんだけど、実際アメリカ軍の飛行機が来たら、あわてて主砲を撃っちゃった。そしたら周りの機関銃士はみんな死ぬか吹き飛ばされて海に落ちるかしちゃった。そうすると前の主砲付近からはぜんぜん撃ってこない、後ろの方からしか来ない、それでアメリカ軍の戦闘機はヤレーッと前に攻撃が集中した。それで武蔵は前に穴が空いて、後ろのスクリューの方を上げて沈んでいくわけです。武蔵のような軍艦をはじる数の大いなる無駄を今の中国はやっている。日本はわかっていた、武蔵が大和が無駄だって事、だから三番艦の信濃は戦艦じゃなくて航空母艦にした。しかし、考えてみると大和や武蔵のような意味のない戦艦を造るという事と、日米戦争、絶対に負けるような無謀な戦争を始めた事は関連している。それだけではなく朝鮮半島に於ける植民地支配にしても、中国に対する植民地支配、満州国の建国にしても、こんな無謀なことなんだよ。こんな事やったって日本は決して豊かになるわけではなかったし、永く日本の繁栄が担保されるわけではなかった。そうなんだけれど、そのような事態に踏み込んだという自分たちの一方的な主観的な思いで、客観的な情勢や実証性を無視するというこの日本の態度と、武蔵を造る、戦争をするという事は関係していた。そうすると中国も航空母艦を造るという無意味なことをやっているということは、もしかすると、非合理的な国家意志によって、本来起こす必要のない軍事衝突を周辺国やアメリカや日本と起こす可能性もあるかもしれない。それは注意しないとイケない。

## 【グローバル・ジハード論】

話を戻すね。無人飛行機によって世界は変わっている。それはアメリカが言うところのテロとの戦いということから生まれてきたものです。アルカイダにも頭の良い人達はたくさんいるんだ。アルカイダの連中が半年ぐらいで皆殺しになったでしょ。そのところでねアルカイダの理論家が、グローバル・ジハード論という新しい理論を考える。これはね、私たちの考えに賛同してイスラーム世界革命を起こそうという人達はグループをつくるな。2～3人の小さい信頼出来る同志よりもこの考え方を拡大するな。インターネットで連絡を取るなどもってのほか。アメリカが察知するから電話も使うな、それでね、中東いやアフガニスタンのアメリカ軍基地を対象とした自爆テロをやれと、必ず隙間があるから自爆テロが出来る。アフガンとかシリアとかイラクとか、あるいはパレスチナのガザ地区ではね「自爆用のチョッキ屋さん」というのがある。このチョッキというのは飛行機の救命胴衣に似ている。しかし、中には空気が入っているのではなくプラスチック爆弾が入っている。それで引っ張るとバンと爆発する。そこにクギとか画鋲とかたくさんガムテープでつけるの。それで爆発すると画鋲やクギが飛んで、そばにいる人は、目が飛び出したり内蔵がちぎれたり凄惨な現場になる。だから単に殺傷能力があるんじゃないくて、阿鼻叫喚の現場になるわけだ。ところがその現場を捜索した人の話を聞いたのだけれど、自爆テロの犯人を見つけるのはすごく簡単なんだって。人間の首ってものすごく弱い。だからこの自爆テロチョッキをバンと爆発させると首が十何メートルも上に飛ぶんだって。その間に下の方は阿鼻叫喚になっているでしょ、そこでコロッと落ちてきてきれいな首が一個だけあると。だから捜査官はきれいな首を見つけて、これが犯人だとわか

るわけ。ただ、首に尋問しても何も出てこないからね、テロをやるときに一番大変なのは退路の確保だ。自爆テロは退路を確保しないでよいから。それから尋問に対して死んだ首は答えないからね。秘密も守れるから自爆テロは多用される。目標はたったひとつ、『西側はイスラームの世界から出て行け』。これを中東で自爆テロでやる。それから西側では、立てこもりとか手製爆弾による自爆テロをやれと。要求はやっぱり一緒に、『西側は中東から出ていけイスラームの世界から出て行け』。それがボストンの爆弾テロ事件やシドニーの立てこもり事件などになった。日本だって1億2700万人いますよ。その中にちょっと変わった人はいますよ。だからイスラーム国は、『日本の同志よ、日本の状態を悪化させるために、安倍政権が中東への深い関与をしていると。野田政権も菅政権もしていた。この流れを変えるために日本は中東から手を引くためにテロをやれっ』って言ったら、それに呼応してすぐにでもテロが出来る。例えば今日このワークピアに来るときに、荷物チェックあった？ 無かったでしょ。私が本当に信頼できる人間だという保障はない。おもむろにポリタンクの5リットルをみんなにまき散らし自分がかぶって、マッチするかもしれない。10人は死ぬよ。日本中でこのようなテロが起きて、「中東に対する人道支援は一切するな」という主張をすれば、間違いなく世論は動揺する。グローバル・ジハード論はそれで何を狙っているか。中東から完全に欧米や日本が手を退くでしょ、そうしたら中東の独裁政権や王国は、自分の国家の領域を実効支配することが出来なくなる。隙間が出来てくる。その隙間に世界イスラーム革命の拠点国家を創るというのが、グローバル・ジハード論なんです。その状況がレバント、これはシリア、レバノンを含む昔の名前ね。このレバント地域に出来てしまったわけ。そう簡単にこの状態というのは納まらない。この今のイスラーム国という流れは、イ



ラクのアルカイダという組織から出来た。ただこれは今までの本家のアルカイダ、あるいはグローバル・ジハード論と大きな違いがある。本家のアルカイダ、あるいはグローバル・ジハード論はイスラームの味方、敵はキリスト教・ユダヤ教の世界だ。それに対してイスラーム国の母体になったイラクのアルカイダは、世界革命を実現するより前に、まずインチキ革命路線を主張しているシーア派を殲滅しろという内ゲバをやる。だから今のところヨーロッパやアメリカでテロが起きていないでしょ。ところがものすごい数のテロがシーア派の地域で起きているし、激しい戦闘が起きている。それからイエメン情勢が悪化しているというのも、実はこのシーア派とスンニ派の宗派対立が中東で拡大しているという事の反映なんです。シーア派の中心はイラン、そこでアメリカは今考えているわけ。敵の敵は味方だと。イランにとってアメリカは外交関係もないし、かつての大使館占拠事件もあったから国交も断絶しているし敵ナンバーワン。しかもイランは核開発・弾道ミサイル開発をしている。これを止めさせないといけないという事になっているけれども、オバマ政権はイラン政策を見直した。前のアフマディネジャドという大統領は、ハルマゲドン信じている。核兵器を持った場合にはイスラエルを攻撃する可能性があった。だけど、いまのロウハニっていう大統領、それからハーメネイという最高指導者はそこまではしないだろう、抑止力として核開発をしているのだろう。ならばイランが核をつくる事になったって天下がひっくり返るようなことにはならないだろう。それよりもイスラーム国を完全に殲滅・皆殺しにしなければいけない。そのためにはイランだったら皆殺しにする用意があるだろうと、だからイランに手伝ってもらいたいと思っている。新聞のニュースで時々、イラクの正規軍がイスラーム国の支配している領域を開放したという事が出ているよね。あれは本当はイラクの

正規軍がやっているんじゃないの。イラクも入っているんだけれどイランから送られているイスラーム革命防衛隊の人達。イスラーム革命防衛隊なんて宗教軍みたいで弱そうに見えるけれども、イラクの正規軍よりずっと強い。最精鋭部隊。核開発もここでやっているし潜水艦も持っている。あと手を使った殺傷訓練などを徹底してやっているような兵士がたくさんいる。この部隊を送り込んでいるからイスラーム国に対する巻き返しが出来ている。だからアメリカが今イランと手を握りたくてしょうがないわけ。その結果起きたのが4月2日のローザンヌでの合意なんです。いま1万9千基持っているイランの遠心分離機の内、6千基を残すことが出来る。しかも、地下深くでウランの濃縮をしている施設も研究施設として残すことが決まった。日本もウラン濃縮をやっているよ、学生諸君はわかる？何%だかわかる？5%です。原発に必要とされるウラン濃縮は5%で大丈夫です。ところがイランは20%のウラン濃縮をやっている。どうしてか。ウランの濃縮度をどんどん上げていって90%まで達すると広島型の原爆になるから。それだからイランは今、一所懸命に濃縮技術を上げようとしている。とりあえず20%の能力を持っているところで止める。とりあえず今のまんまで良いよというところが、ローザンヌ合意の主たるところなのね。6月中に本合意が出来るかという事が大きな山になっているんだけれども、いずれにせよこの合意が出来てしまうとイランは1年で原爆を持つ事が出来ちゃう。さらにあと1年かけることによってそれを1トン以下に小型化することが出来る。となるとシャハブ3という北朝鮮のノドン・ミサイルのコピーなんだけれど、このミサイルに核弾頭を積むことが出来る。さて、そこでイスラエルとアメリカの関係が緊張している。

## 【核不拡散への影響】

3月に共和党の招きでイスラエルのネタニヤフ首相がワシントンに行ってオバマ政権を激しく非難する演説を行った。しかし、あの演説だけを聴いても事の本質はわからない。というのは、その背後に隠れている秘密協定があるから。これは、サウジアラビアとパキスタンの間の秘密協定なんです。もちろん表には出ていないけれど、世界のインテリジェンスや軍事専門家は、秘密協定があるという前提で国際情勢を見ている。それはどういう事かということ、イランが核兵器を保有するようになったら、可及的速やかに(ただちに)パキスタン領内にある核弾頭のいくつかをサウジアラビアの領内に移動するっていう秘密協定です。パキスタンは経済的にすごく困窮した国家なの。核開発やミサイル開発を行う力はない。じゃあなんで核とミサイルを持っているのか、それはサウジアラビアが全部お金を出したからね。だからサウジアラビアはパキスタンの核兵器とミサイルのオーナーなんだよね。オーナーがよこせと言ったら渡さなければならない。しかも、アメリカにとってサウジアラビアは非常に重要な国家。アメリカは物理的にはその移動を阻止することが出来るよ。しかし、それをやったらアメリカとサウジアラビアの関係は決定的に悪化する。今も相当悪いけれど、それをやったら中東への足がかりをアメリカは完全に失う。その結果どういう事が生じるか？ サウジアラビアが核を持てば、アラブ首長国連邦やオマーンやカタールはパキスタンから核を買う。それからエジプトとヨルダンは自力で核開発します。そうすると中東の10ヵ国以上が核兵器を持ってにらみ合うという事になるわけです。そうすると現在の核不拡散体制というのは完全に機能しなくなる。そしたら極東にも影響を与えるよね。北朝鮮・中国に加え、台湾と韓国が核保有をする可

能性がある。特に韓国に関しては、朴正熙(パクチョンヒ)大統領の時代に、秘密裏に核開発をしていてアメリカが強い圧力をかけてそれをという経緯がある。そうすると歴史認識問題や竹島問題と「核カード」の問題が絡んでくる。日本の中でも、勇ましい人達というのは核武装しろと言い出してくると思う。六ヶ所村ではプルトニウムを抽出することが出来るからね。プルトニウムからは長崎型の原爆を造り出すことが出来る。しかし、プルトニウムを抽出していると「こわい」「危険だ」ということで日本はプルトニウム発電をやらないの。もう一回プルトニウムとウランをくっつけてMOX(モックス)という独自の動力源にして発電している。これが福島第一原発の第三号炉だ。いずれにせよこの種の核拡散の議論がこれから非常に広がってくる。

神奈川県だと、小泉純一郎さんの脱原発発言というのが非常に話題になっているんだけど、彼は脱原発・原発ゼロという事は言うけれど、核不拡散の必要性って言ったことあるかな。僕は、小泉さんは核開発の可能性に関しては、日本はその潜在力を残すべきだと考えているんじゃないかと思う。それだから彼は、通常原発ゼロという人は、核不拡散・核兵器廃絶を言うのだけれど、彼は核兵器廃絶に関しては絶対に口にしない。そこのところ、原発ゼロを主張している人の中でも核兵器との関係でどういう考えをしているのかをきちんと見ないと、みなさんと同じ考え方に立っているのか、そうじゃないのか、そこのところがわからなくなって来ちゃいますよ。

## 【反知性主義の安倍政権】

ただね、我が安倍政権はそういう難しいことがわからない。反知性主義に基づいた政権ですからね。実証性・客観性を軽視するか無視する。自分が欲するように世界を理解するというタイプですから。反知性主義者を知性をもって説得しても、さっきのホルムズ海峡の例のように無理だからね。反知性主義者は、知性自体を憎んでいるから。『とにかく理屈を言うんじゃねえ、民主党政権が細かい理屈ばかり言うから日本は弱くなったような感じがする』と。『それよりも重要なのは気合いだ・空気だ』と。『仲間大切にする絆だな』と。そうすると、雰囲気とすればコンビニの前でウンコ座りしている暴走族の予備軍のような感じだよね。本格的な暴走族にはならないけれども。あのエトス(性質・気風)が今の政権を支配しているわけだよね。こういうのを崩すのはすごく大変です。それだから奇妙なことが起きるわけ。日本はロシアと仲良くしようと思っているのか、それともケンカしようと思っているのか。21日にプーチン大統領は、サンクト・ペテルブルグで記者会見をやって、『日本は態度をはっきりしてくれと、ロシアは全部準備が出来ているんだぞ』と。最近おかしくなっているのは日本の責任があるのじゃないかという形で聞いてきた背景には以下の事情がある。5月の20日の夜遅くのこと、鈴木宗男さんから電話がかかってきた。今、森喜朗さんとナルイシキンロシア国家院(下院)議長と飯を食ったと。このナルイシキンという人はプーチンの側近中の側近。クリミア併合やウクライナ問題に深く関与している。それだからアメリカは「お尋ね者」にしてこの人の資産を凍結して渡航禁止している。安倍政権にとってナルイシキンさんはお友達だから日本に入れたわけ。それだけでもアメリカはアタマに来ているわけ。だから外務省は安倍さんとは会うべきではないといっ

てそのようになったんだけど、実は明日(6/23)の昼に会うことになっている。へえ、それはナルイシキンがまたすごい腹のくくり方ですね、何があったんですかと聞いたら、森さんにこう言った。「実はプーチン大統領から口頭メッセージを預かっている。もし安倍さんに会わないだったら持ち帰ってしまう」と。それで、森さんは安倍さんに電話した。そしたら安倍さんも「実は私もナルイシキンさんと会いたいと思っていた、外務省がダメだと言う」と釈明した。どっちが総理かわからない。会いたきゃ会えばいいのに、外務省に連絡したら齋木事務次官は、やはり日米同盟は大切で今ナルイシキン氏に総理を会わせるのはいかがなものかなとか言うわけですよ。ところが杉山さんというNo2の人に話をしたら、私も心の中では会わせた方が良いと思っていたと。「総理がそうおっしゃるのならば全力をあげて準備をしましょう」とか言うわけ。この杉山さんという人はね、私もこの人の世話になったから「檻」に入ったようなもので、あの時は対露関係をストップさせる方ですごい一所懸命だったわけ、法廷に来て私の目も見ないでひどい証言をしたが、それはそれとして、森さんは言うわけ。「杉山は最近フットワークが良いな」と。鈴木宗男さんも「杉山は、心入れ替えたんじゃないか」とか言っているんですね。そんな二十歳過ぎて人間の心が変わるはず無いですよ。杉山は出世しか考えていません。すなわち次官になることしか考えていない。その人事権は官邸が持っていますから、官邸の言うことはなんでも聞くと。それでやっているから動機は強力です。私は杉山が国益とか日露関係の発展とか言っていることを絶対に信用しないですが、出世のためになりふり構わずやっているんだから今回は本気でアメリカとでも構えてやるでしょう。私はそういう風に答えたのです。そしたら翌日、日本側の発表では15分、ロシア側の発表では50分、たぶん、日本側はfifteen と fifty をごま

かせると思ったのでしょうか。都内のホテルで会った。こんなの総理に15分の口頭メッセージ通訳が入ったら7分半ですよ、片側3分15秒よ。そんな会談なんて無いって。だからこの辺の15分って国民をだましている。ロシアの方は50分って本当のことを言っていると僕は思う。その夜ね、あるロシア人から電話がかかってた。東京にいたので一杯飲まないかって。そして会ったときに僕にこう言った。「安倍政権の決断力はすごいで。アメリカとも本気で構えている」。これに対して私は、「杉山が調子よくやっているだけじゃないか」と答えた。するとロシア人は、「しかし、ラッセル国務次官補の反応を見たか」と言うわけ。アメリカでアジア太平洋地域を担当する最高責任者のラッセル国務次官補は怒り心頭に発して、「ニッポンはロシアと通常の関係は持たないものと確信している」と。ロシア人はこの事実を重視して、「オイ佐藤、この声明は4時間半後ぐらいに出ているぞ。という事は、日本政府の発表を聞いていないで、報道だけで判断している。アメリカは本当にアタマに来ている。ここまで腹くくれる安倍というのはスゴイ。これはなかなかの自主外交だ」と。人にこんな話をしていた翌日、わが菅官房長官、「我々はロシアと今後も対話を継続していく」とって会見で言うんですよ。ということはラッセルの言ったことを無視するという事です。アメリカにケツ出したっていうこと。Noといえない日本どころではない。アメリカにケツまで出している。二つの可能性がある。一つは高度の政治判断で、菅さんの政治決断でそれをやった。可能性の二は、何も知らないところで何もわかっていないところで、官僚の書いたメモをそのまま読んでしまった。それで日米関係はぐちゃぐちゃになっちゃったのよ。ここでまた杉山さんは新しい案を考えるんだなあ。アクセルを踏みすぎたから今度はブレーキを踏めば良いと。そこで、ロシアと戦争状態になっているウクライナ、ここに総理を送ろうと。そうす

ればアメリカも喜ぶと。しかもお土産に真水で2310億円をつけている。ウクライナの政権は腐敗しているからね。だから身内で分けてしまいますよ。それから民生に使うて浮かした分を戦争に使うような政権。ロシアと敵対しているウクライナに金を入れて戦争を手伝うようなもの。史上初の総理のウクライナ訪問をやり、バランスをとるために、今度はサミットの前にロシア殺しをやろうとしている。それでこのこと(大きな政治決断の下に)安倍さんは行ったの。今後のロシアに「対話と圧力で接していく」と言っているのよ。「対話と圧力」とって聞いたことがあるでしょ、そうロシアに対して北朝鮮と同じ扱いをするって言っているのよ。これはクレムリンを刺激したよね。今度はブレーキを踏み過ぎちゃったから今度はアクセルを踏もうと杉山さん考えた。「北方領土交渉を進展させるために年内にプーチンさんに是非来て欲しい」というシグナルを出したわけ。それだから私のところにもモスクワから電話がかかってくるわけで「この三つの事態をどう分析すればよいのか、何か深い戦略があるのだろうか?」と。プーチン大統領もいったいどうなっているのかわからないので教えてくれと。これが安倍外交の実態ですよ。民主党政権の時と比べてずいぶん弱くなったよね。あとね、金曜日の毎日新聞の総合面におもしろい記事が出ていた。郵貯の限度額の上限を3000万円にするっていう原案を自民党がつくっている。10月に郵貯の株式を上場すると。何だと思いますこれ、年金基金がいよいよ無くなってきたんだね。種銭が切れたんだね。株を買い今度は郵貯に手を出すということだね。しかも郵貯の限度を3000万円にするんだったら政府保証が全額来るからね。民間の金がそこに集まってくると種銭が増えるから、その種銭でどんどん株を買って行って、来年の参議院選挙まで株を上げるということだね。年金・郵貯、国民から集めた金をどんどん株のバクチで使っていく、こういう無責任な怖い

ことは民主党政権では出来なかったよね。でも今、それをやっている。外交がこれだけお粗末になっているでしょ、経済政策がしっかりしているはずがないじゃない。一事が万事ですよ。それから学生諸君、今年間学費いくら？ 神奈川大学経営学部。入学時の納付金 130 万いくらでしょ。今、アメリカのアイビー・リーグっていうエリート大学で年学費だけで 500 万円ぐらい、4 年間の教養課程と 2 年間の修士課程で 3000 万円が必要なんだ。安倍政権の今の教育改革の方向で進んでいくと、10 年後に神奈川大学に入学する人は、たぶん入学時の納付金が 300 万円になっていると思う。そういう方向での教育改革によって、明らかに親の経済状態によって子どもの受ける教育が変わってくる。こういう様な方向性が教育改革の中で起きている。日本全体がすごく弱くなりつつある。ところが我々はなんでそういう現実を見ようとししないのか。これを知るためには社会学の知識が必要なんです。

#### 【社会学の知識】

ニクラス・ルーマンという社会学者の「信頼」という本（勁草出版）、を読んでみるとよくわかる。どういう事かというと、この世の中は複雑なので、複雑なことをいちいち考えていると大変だから、その複雑さを縮減するために「信頼」が一番重要になる。だから政治家が「俺は聞いていない」というのは「俺を信頼していないのか」ということです。官僚との信頼関係を政治家が重視するのは、「この官僚が言っていることならばウソがない、自分が調べることは時間も専門知識もない」から信頼できるということです。こういうブレインをつかまえることが重要だっていうのは、複雑性を縮減するために必要なんだね。信頼というのは不思議なメカニズムがある。一回

信頼するでしょ、そうすると裏切られてもなかなか認めようとししない。どうしてか。認めると、そういう人を信頼した自分が惨めになるから。だから、ある程度の位置から外れるまで、信頼度は維持される。逆に信頼の維持が外れちゃうと、それはなかなか戻らない。民主党による政権交代は、国民の強い信頼を得て起きた。その信頼の閾値というのはかなりのところまであったんだけど、それが崩れちゃった。でも本当のこと言おうか？ 民主党政権と自民党政権を比べると、良い意味でも悪い意味でも民主党政権が全部政策の枠組みをつくっている。消費税 10% の流れってどの政権が言い出した？ 菅政権でしょ。TPP は？ これも菅政権でしょ。辺野古の問題が深刻になった際の V 字滑走路の合意は？ これも菅政権なんです。菅政権で決まった基本的なアジェンダを、今安倍政権がひとつひとつ民主党政権ではやらないような、めちゃくちゃ下手なやり方でやっているだけなんだ。それで簡単な神話をつくっちゃった。「株価が良くなれば経済が良くなる」。「株価が良くなれば日本は強く豊かになるんだ」と。これは幻想です。しかもその株価を高くするポイントとして、円安を誘導していく。

韓国との関係。例えば慰安婦問題でも、斉藤勲先生は非常に努力された。本当にあと一歩というところまで行っていた。李明博（イ・ミョンバク）政権との間でも、水面下でいろんな動きを日本政府はやっていった。戦時中の徴用工の問題に関しても。しかし、それがこれだけひどくなったのは、麻生副首相や安倍首相の無責任な韓国人を侮辱するような発言だけでなく、経済政策にある。韓国から見ればアベノミクスというのは、為替ダンピング以外の何ものでもないですよ。国債の大量引き受けをやらせることによって、人為的に円安を誘導するということは、結果的にウォン高になる。ヒュンダイもサ

ムソンも何にも悪い事していないのに、なんで日本が為替をレート一方的に変更させて売れないような状況をつくるのかと。ふざけるなという思いがあるのは当然です。野田政権の終わりの時って、ユーロ危機も一段落して株価も上がりつつあって、それから円安傾向も出ていた。しかし、こんなジェットコースターのような投機的な経済ではなく、もう少し安定的だった。経済政策を含めて近隣諸国と不必要な摩擦を起こさないということが、民主党政権がやっていた政策の要だったわけです。安倍政権いつまでも続くわけではないですよ。しかしこれが崩れるときというのは政治の本当のカオスが来る。その時に、じゃあどういう受け皿でどういう対応をしていくかという事になると、このところ斉藤先生の出番が再び来るのかなと、このように思っています。あと20分ほどありますので皆さんから質問や意見をどうぞ。

#### 【会場との双方向論議】

(佐藤) 意見質問なんでも歓迎します。特に若い人達、遠慮せずになんでもどうぞ。

(1) イスラエルに関して、今年に入り組閣・連立の組み合わせも変わりましたが、このことにより世界情勢や中東情勢に何か影響を与えることがあるかお考えを。

(佐藤) ほとんど影響はない。イスラエルは極右といわれるグループでも労働党でも外交政策の幅というのはほとんど変わらない。そ

れから、今のガザ地区を押さえているハマスとの関係において、折り合いがつくということはないから。政策的なマヌーバの余地というのは実際ほとんど変化がない。ちょっと問題になるのは、西岸での入植地をどうするかということだけれど、これも国際政治全体に影響を与えるファクターにはならないです。

(2) 神奈川大学田中です。今日の話はちょうどタイミング的にも、日韓の50周年、それから明日は沖縄戦の70周年、6月23日で良いタイミングだったのですが、質問の一つ目は、もし佐藤さんご自身が内閣総理大臣だったら、韓国に向けてどういうメッセージを出すのが日本として一番適切な事なのかということと、二つ目は沖縄、いかにも負担軽減のために辺野古のV字滑走路という話が進んでいますけれども、それにしても沖縄の負担は大きすぎるんじゃないかと。でも、我が国として沖縄の問題を抜本的にどのように位置付けていったら良いか、ご自身が総理大臣だったらお考えを聞かせて下さい。

(佐藤) 理想論ではなくて、今、安倍政権の下でぐちゃぐちゃになっているという前提のうえで、韓国に対しては、お互いの違いを虚心坦懐に認識しようではないかと呼びかけて、義務教育で使う日韓の共通の歴史教科書の形成を僕だったらうたえる。慰安婦問題についても日韓基本条約についても竹島問題についても、それから徴用工問題についても、あるいは日韓併合についても、いつの時点から無効だったのかということも全部含めて全部両論併記になる。完全に見解がぶつかっている。それこそ古くは三韓の時代、いわゆる任那(みまな)、あるいは、豊臣秀吉の朝鮮侵略・侵攻、これをどのように位置付けるか。実は朝鮮侵略と琉球処分、今沖縄では琉日戦争

と言っているが、1609年の薩摩の琉球入りも密接に関係している。朝鮮に戦費を出せということを琉球は拒否した、琉球王国は朝鮮と通信使の交換をしているわけだから友好国だから、朝鮮とケンカする必要はないわけだ。それから中国とケンカする必要もない。こういう様なことが全部構造的にわかるような、お互いの歴史認識の相違について両論併記の教科書をつくって、早い段階から、どこが考え方が違うのかと、違いを知って尊重し合う。無理矢理共通の歴史認識や共通の世界観にもっていかないことが重要だと思う。

それから、韓国の側としては、いろいろな不満はあるのだけれど、かつてのアジア女性基金のラインは日本政府として踏襲し、総理としての慰安婦の人達に心の底から詫びた手紙をきちんと出しますと、こういう事は最低限やらないといけないですね。

それから、沖縄との関係に関しては連邦制にします。沖縄の基地問題に関して、本土と連帯していこうというような動きは無理だと思う。今0.6% (県の面積比) と1:3(基地面積比) の関係ですよ。実は1950年代は米軍基地の関係でどのくらいの比率だったと思いますか?9:1ですよ。日本に9、沖縄に1。それこそ砂川闘争とかそのような結果がどのようになったのか、岐阜や山梨にある海兵隊はなぜ普天間に行くことになったのか。それをもう一回考えてみると、ある意味、反基地闘争が今のこの構造を造り出してきたことが明らかにあるのですよ。それからさらに、沖縄復帰の時点で1:1です。こういう状況になってきたというところにおいては、もう構造的な相違があまりにもありすぎる。(基地でもそうだから)同様に日本人と沖縄人は異質な要素があるということを認めなければいけない。同じ「日本人」という枠でもくくれるだけだけれど、沖縄人と日本人と

いう集団の違いがある。だからどんな形でどんな数字を出そうとしても、沖縄側は今の辺野古は認める事は出来ない。私は辺野古の将来に関しては楽観しているわけです。どんなことがあっても新基地建設は実現できないから。力によって実現しようとしても、どんな提案をしても実現できないです。というのは、140万人いる人々の、過剰同化しているごく一部の人を除いて全員が反対していることを強行するという事は内戦になりますから。沖縄は全国で唯一、差別が原因で県庁が焼き討ちされたことがある地域ですからね。あんまり軽く見ていると大変なことになる。あるいはペリーが1853年5月に那覇に来たときにも女性暴行事件を起こしたと、その時の犯人の水兵を沖縄人は殺していますからね。ですから、何かに対していつもヒツジのようなおとなしい人達だと思っていると大きな間違いなのです。それで、沖縄の自己決定権というところから出てくることの主張、そこのところをきちんと認めるという方向になる。これは、私は半分向こうの血が入っているのでハイブリッドで感覚がわかります。ですから、虚勢ではなく情勢をぜんぜん心配していないんです。違うところなんだから、沖縄の沖縄人が決定したという事を重視すると、そういうことになると思います。その場合、もしかしたら沖縄側の決定というのは“Yankee Go Home”ではないかもしれない。“Yankee Go North”日米安保同盟が大切なのはわかりました。それだったら本土で負担して下さいと。じゃ本土が負担しないで、グアムなりハワイなりに下がるとなった場合に、抑止力、沖縄の左翼の人達は伝統的に抑止力は神話だというんですよ、私は抑止力はあると思う。だから、その分は自衛隊で埋めなければいけないと思う。そうしたら、沖縄からこんな案が出てくるかもしれない、沖縄県枠で採用の公務員で自衛隊員を採ってくれと。自衛隊に出向させると。ただし、配備は沖縄県内に限ると。それで台風の対策やサ

トウキビの刈り入れの手伝いもする。いわゆるアメリカの州兵みたいなものです。それだったら現在の7000人ぐらいの自衛隊員に加え、たとえば1万5000人ぐらいの「沖縄防衛隊員」ができる事に対して、一部の革新議員からの反対はあるだろうけれど、沖縄の保守陣営はそれを歓迎すると思う。それから戦時中の住民虐殺の記憶もあるから、日本軍が来ることには抵抗がありますよ。しかし地元の住民だったらそれはやらない。しかし、そうなった場合に1万5000人の銃とミサイルを扱える沖縄兵ができるということを中央政府はどう視るかってことですね。状況によってはどちらを向いてくるかわからないですからね。今、沖縄っていうのはそういう大きな曲がり角に来ているんですよ。だから、翁長沖縄県知事、実は先ほど電話でちょこっと話をしたのですけれど、7月29日に、今度大きなシンポジウムを東京でやるんで、一緒に話をするということになります。この前のハワイの訪問なんていうのはすごく戦略的なんですよ。ハワイにいる沖縄人は「沖縄人」というアイデンティティがあるんですが、しかし「日本人」というアイデンティティはほとんどないんです。これは沖縄にいる、あるいはアメリカにいる、あるいはペルーやブラジルにいる沖縄人も同じなんです。今回、デービッド・イゲというハワイ州の知事と会いました。また3ヶ月後に行って翁長さんと会うけれど、朝日新聞や読売新聞の報道だと、イゲ知事は辺野古の問題は中央政府間の問題だとして、にべもなく突き放したという事なんだけれども琉球新報の報道を読んでみましょう。翁長さんはイゲ知事に、同じウチナーをルーツとする沖縄人として、沖縄の話聞いて欲しいと。それで基地の問題を話したらイゲ知事は、「この問題の権限は基本的にワシントンと東京にあり、ハワイ州知事としての権限はないのだけれども、お話は注意深く聞きました。ワシントンDCでがんばって下さい。」と言っているんです。その上で「合意

して2700人の海兵隊員を沖縄からハワイに移すという事になるならば受けます」と。同胞である沖縄人の負担を我々は受けると、こういうふうに言っているんです。この一点で大きな成果ですよ。そして、ハワイ州選出の上下院議員は日本政府の対応に問題がある、アメリカ議会で問題にすると書いていますからね。ですからハワイから固めていくという翁長戦略というのはきちんと効果を上げています。それが日本で見えないんですね。同じように、スコットランドの住民投票が去年45対55で独立賛成派が敗れたときの日本の報道は、これは神奈川新聞・共同通信含めてですが、「民族主義・ナショナリズムの要素が希薄だった」と。これは地域格差で経済の問題だという論評を書いて、これで一段落すると書きました。実は沖縄タイムスもそうだった。沖縄タイムスは現地に記者を送ってなくて共同通信電を使ったから。琉球新報だけは別。「これによって独立化はより勢いをつけるだろう。なぜならば今回の独立に反対した55%の中には自己決定権を持っているが今は独立すべきではないと考えている人達がいる」と。この自己決定権を持っていると考える人達は、(独立論者は言うまでもなく自己決定権を持っていると考えるのが大前提ですからね)。5%はいるだろうと。という事は、今後の情勢の違いによってはいつでも独立の方向に行くことができる。これによって独立派は勢いづいたし、今後その流れというのは変わることがないという分析なんです。じゃその結果、どういう事になったか、今年のイギリスの下院議員選挙ではハッキリしたわけです。スコットランドに割り当てられた59議席中56議席がスコットランド国民党がとる事になった。スコットランド国民党というのは第二次世界大戦中の兵役拒否党ですから。「イギリスの戦争に我々が行く必要はない。我々はスコットランド人であり、彼らの戦争は関係ない」と。こういう立場ですから。しかも党首が立候補していないということ



が重要なんです。イギリスは占領国ですからね。占領国議会にスコットランド国民党が人を送り出す意味というのは、占領状態を解除するために送っているのです。だから党首がそんなところに行く必要はないと。スコットランド議会だけに議席があれば良い。彼女は宣誓で他の議員達がイギリス女王に対して宣誓した際に、その宣誓を拒否し、スコットランドの主権に対して宣誓していますから。おそらく沖縄県は近いうちに県の代表団をスコットランドに送って、スコットランドの自己決定権拡大に関するさまざまな聴取をして、いかにして合法的に中央政府から自己決定権を回復していくかという戦略を練っていくことになると思う。ですから、着実に沖縄はその布石を打って一步一步進んでいるわけです。たとえば辺野古基金がどうして出来たのかというと、今3億ちょっと集まっていますけれど、これは簡単な話で、日本の保守勢力や右派からどのような批判が来るかということが事前にわかっているから。沖縄県は地方交付税交付金、決してそんなに多いわけではないですよ。たしか18番目ぐらいですからね。沖縄振興策があるから多く見えるんだけど、それでも島根や鳥取などの方が多。全体をトータルしても8番か9番目ぐらいです。それなんだけれど、国民全体の税金が沖縄県に来ていて、それによって国策として決まった辺野古移設に反対する政治活動をするという事になったら、これは保守系が新聞などを媒介して、「沖縄は国民の意思に反することを国民の税金で行うのか」というキャンペーンを張ることは目に見えているでしょ。それに対して、そういう反対の政治活動するのに別のお財布をつくったという事ですよね。でもこれは、別に沖縄の身勝手ではないですよ。だってそういったことやったところあるでしょ、東京都。石原慎太郎さんが尖閣を買うという事を言った。都の金で。あれ都議会にそのまま予算要求したら都議会は承認すると思いますか？絶対承認しな

いですよ。東京都関係ないもの。それだから、あの猪瀬直樹のつつあんがですよ副知事の立場で金を集めた。そしたら15億集まったんですよ。簿外で15億も金もっている行政なんて正常ではありません。しかも、目的は尖閣を買うという目的で金を集めたのだけれど、国が買っちゃったから。その金は宙に浮いちゃった。今どうなっていると思います？基金化されているんです。そして尖閣に船溜まりをつくったり、尖閣の振興に使うという目的できちんとした条例が出来て基金化されているんです。14億ちょっと。東京都が東京都と関係ない沖縄の尖閣について何かするための基金をつくって、条例を作って合法的に存在するのだから、沖縄が沖縄の自分の意志をつくるために基金をつくる、何の問題もないわけでしょ。猪瀬さんみたいに訳がわからないところで何の資格かわからないところで事実として金集めるということではなくて、責任主体を明確にした民間の実行委員会をつくって、こういう目的のためのお金を集めますと言って集めて、いずれはそのお金を県に渡して条例をつくって基金化する。これは東京都から学んでいる。ですから、そこところは、沖縄は着実に布石を打っていますから、そう簡単に中央政府が圧力をかけたり懐柔をかけてもそう簡単には崩せないんです。ちなみに、慰霊の日というのは、いつからか6月の23日になっちゃったんですね。歴史事象的に、もし32軍の牛島満(うしじまみつる)、長勇(ちょういさむ)両中將が自殺した日を日本軍の組織的抵抗が終わった日とするならば、今日なんです。6月22日なんです。これは22日という墓標があって、太田昌秀前知事が実証調査をしてきてハッキリしているんです。でもどういうわけか、最初は沖縄県も22日でやっていたんですが、どこかで1日ずれちゃったんですね。そのまま引き継がれているということです。

(司会 齋藤勁) お約束の8時になりました。現在発売中の文春に教科書の問題についての佐藤さんの寄稿がありますね。「韓国と中国の教科書を見ると」ということで書かれていますので、ご参考になるのではないかと思います。

(佐藤) 特に、やっぱり韓国の教科書と日本の教科書のギャップが大きいから、これは早く日韓の共通教科書を使って、お互いの違いを理解しておいた方が良いでしょうね。

(司会 齋藤勁) あと最近、前駐韓日本大使の武藤正敏さん、私も韓国についてやってたときのパートナーでやっていた大使が、「日韓問題の真相」という本を出版されていて、これもひとつの参考になる本ですね。私どもの政権の時に、「日中韓キャンパスアジア構想」ということで、これはこれで今でも日中韓の学生さんが、それぞれ相手国に行ったときにはその国の言葉で学ぶ、中国行ったら日本の学生も韓国の学生も中国語で学ぶ、日本に来たら日本語で学ぶという「日中韓キャンパスアジア」でつながっていて継続をしています。未来を創っていく若者が、先ほどから言われているように忌憚のない意見を交わして将来をめざしていこうということで、これはこれで着実にいっていることはご紹介できると思います。私も沖縄のことは微力ながらいろいろな問題でとり組ませていただいておりますし、7月29日のシンポジウムはまた募集が出ることでしょうし、お申し込みいただければと思います。知事も来てのシンポジウムです。

今日は勁草塾一周年ということで、昨年もお越しいただいた佐藤優さんに熱く語っていただきました。本日はありがとうございました。